いふことも眼目は根本問題に就いての相談であり協調でなければならぬ。一般人類の福祉の爲にどうしたならば宜いか、どうしたならば恒久の平和が望み得られるかといふ根本に顧みたならば、其處に協調の餘地は必ず有り得る事と確信する。又、これが神の御心に副ふ所以であると思ふ。

現狀を維持し、既得の權益を擁護することは、現に優位を占めて居るものに取つてはそれが好い事であり、正しい事であると考へられるかも知れないが、現に劣位に在り、これから發展しなければならぬ民族なり國家なりに取つてはそれでは浮ぶ瀬が無い。此の信念の爲には何處迄も努力奮鬪を續けなければならぬ。是れは必ずや相當な摩擦紛

爭を起す事は免れ難い所であるから好むと好まざるとを問はず、覺悟の上でなければならぬ。國防といふ事は單に己れを守るといふに止らず、正義を地に行ふといふ點に於いて崇高な使命を有つて居る事を忘れてはならぬと思ふ。

（昭和十四年十月）

世界動亂の意義と皇國の使命

前　言

東亞未曾有の大戰たる支那事變の最中に、又もや歐洲大戰が勃發した。支那事變の解決も前途尙遼遠であるが、歐洲大戰の前途はさらに暗澹として逆睹すべからざるものがある。この世界が有機的一體である以上、東西兩大戰の原因が何であらうとも、互に密接に影響し不可分の關係にあることは爭はれぬ。歐洲戰禍が漸次世界に波及しつつあ

IMT 546

る現前の事實は正にこれを實證するもので、既に實質的には世界大戰の樣相を呈しつつある。否應なしに第二次世界大戰に追込まれつゝある。世界は今や歴史的一大轉換期に立つて居る。

曩に我國は專ら支那事變の解決に邁進し、歐洲戰に不介入の方針を中外に聲明したが、緊迫せる四圍の情勢は最早かゝる超然たる態度を許さぬであらう。希望は必しも現實と一致せざる場合が多い。我日本は現實を直視して進退行動機宜を失せざる用意を肝要とする。

かゝる危機に直面し、今更ら動亂の意義と皇國の使命を說くは迂愚であらうか。否、決して然らず。この根本義にして我が國民の上下に貫通徹底せざる限り、事變の眞の解決も世界戰對策もあり得ない。對

症療法のみでは重病は癒らぬ、病源を突き止むることが第一義であらねばならぬ。

支那事變の意義と現段階

支那事變が北支に勃發したとき、來るべきものが遂に來た、大戰最早免れ難しと覺悟した者は一部の識者に過ぎず、一般常識は事件不擴大現地解決であり、政府の方針も亦そこにあつた。然るに上海に次で敵の首都南京が陷落しても事變は一向解決せざるのみか、反つて益〻擴大發展の一路を突進するに及び、聰明なる日本人は飜然として事變の本質に目覺め、その世界史的意義と皇國の使命とを確認するに至つ

たのである。世界史的意義とは更めていふ迄もなく英米的世界支配體制に對する東亞の抗戰であり「皇國の使命とは新秩序の建設による東亞の安定であり、世界平和への貢献である。」今日帝國不動の國策たる東亞新秩序の建設を指して、後から出でたる智惠なりとするは淺慮も甚しい。一切の思慮と分別とを超越し、必然の運命に支配されて生れたもので、これこそ天意であり神慮である。皇國の使命は正にこゝに在る。

東亞新秩序の建設には、そこに容易ならざる障害がある。舊秩序の儼存が卽ちそれである。舊秩序とは英米特に英國の植民政策に依る世界支配體制の上に成立し、これに依存する秩序に外ならぬ。この秩序

の存する限り英國の福利が常に優先となり、東亞自體の福利が蹂躙せらるゝは自明の理である。東亞の現狀は如實にこれを立證して居る。英國的秩序の最も徹底して居る印度の慘狀は傳へ聞くだに戰慄を禁じ得ざるものがあるが、現に世界に殘されたる唯一の經濟的大植民地として、白人の飽くなき貪慾を唆る支那を現狀のまゝに放置するとき、印度の轍を踏まずと誰か保障し得ん。

最近汪政權が我が全幅の支持により新に成立したことは一應慶賀に堪へないが、これを以て事變解決近きにあり、待望の平和曙光見えたりなど早合點してはならぬ。正直のところこれは事變處理の一段階に過ぎず、眞の解決は寧ろ今後に於ける我國の努力精進の如何にかゝる

といふべきであらう。その理由は他なし、汪政權はまだ生れたばかりの嬰兒にして、それ自體としては重慶政權と太刀討出來る實力を有せず。然るに重慶抗日政權は第三國の支援により依然として儼存し、これが壞滅若くは收容は專ら我日本の實力に待つの外なきが故である。現に英米佛蘇は明に新政權を否認し、新秩序の建設を阻止せんとしつつある。然るに從來物資輸入の切なる要求より英米との摩擦を極度に恐れて媚態これ事とし、甚しきはこれと提携して事變を解決せんとする傾向すらなしとしない。若し日本にして果して親英米でありこれに依存するの態度を棄てずとすれば、汪政權も亦英米依存たらざるを得ない。斯くて日・汪・蔣共に齊しく英米依存たる間は事變の解決、新

秩序の建設の如き百年河清を待つが如く何の日かこれが達成を期し得べき。外交現下の實情は果してこれを杞憂として葬り去り得るか。忌憚なく云へばこの明白なる矛盾に惱殺されつゝも、眼前の利害に捉はれて其の日暮しを演じつゝあるのが僞らざる實情ではないか。

要するに事變の前途はなほ遼遠である。偶〻歐洲大戰も愈〻本格的發展の巨歩を踐み出した今こそ千載一遇の好機、これからでも遲くはない。猛省一番事變の眞意義と皇國の使命とを再確認し、聖戰目的の完遂に邁進すべきである。

「ベルサイユ」體制と世界動亂の必然性

第一次世界大戰の總決算として今より二十三年前「ベルサイユ」平和會議に於て國際聯盟規約なるものが出來た。その理想とする所は世界大戰をして戰爭を永久に葬り去る最後の戰爭たらしめたい、而して聯盟規約をしてこれが權威ある實行機關たらしめたいといふにある。若し當時の列强にして眞に私心を去り神意に副ふ誠意があつたならばもつと立派な規約が出來上り、その權威も一段力强いものとなつたであらうが、事實は遺憾ながら悉くこれを裏切つたのである。

聯盟規約の內容をこゝに詳述する遑はないが、要するに大戰の責任を悉く一方的に戰敗國たる獨逸になすりつけ、その軍備を極度に制限し、その全植民地を奪取して委任統治の美名の下に戰勝國に分配し、

尙莫大なる償金を課したものである。換言すれば當時の戰勝國がその餘威をかりて戰敗國を極度に壓迫し、彼等の現に占め得たる有利なる地位を永久に確保せんとする世界體制を作り上げたものに外ならぬ。但し齊しく戰勝國といふ中にも、英米佛が專ら權威を弄し日伊の如きは伴食的地位に甘んぜざるを得ざりしは今なほ吾人の記憶に新なる所である。

斯くして成立したる規約を金科玉條とし世界列國を糾合して戰敗國の復興と新興國の擡臺を抑壓せんとする英米佛の世界支配體制を「ベルサイユ」體制と稱する。尤も佛はその後人民戰線の跋扈により國勢振はず漸次落伍して、今や專ら英國に依存追隨の外なき實情にある。

この「ベルサイユ」體制はその後華府會議に於ける軍縮條約、九ケ國條約、續いて不戰條約、倫敦條約等により補足强化された。これ等の條約は何れも平和の美名を藉りて新興日本の海軍力を低比率に制限し、東亞及び太平洋に於けるその活動を抑壓せんとする英米の魂膽に出でたことは、その後彼等自らの手に成る文獻により明白である。それでも尙足れりとせず「オッタワ」會議がその俑を作つた排地的經濟「ブロック」の結成により、政治、軍事、經濟の全般に亘り世界を英米の支配下に掌握せんとする情勢を馴致したのである。

斯樣な利己的體制は、これに均霑せざる國々の不滿を買ふは當然であり、戰敗國たる獨逸は申すに及ばず日、伊更に蘇迄も、要するに世

界七大國中の四大國までこの桎梏を屑しとせざるに至り、同時に是等四大國の復興擡頭と相俟つて、さしも一時權威を誇りし「ベルサイユ」體制の崩壞も最早時機の問題たるに過ぎざる情勢に立ち至つたのである。果せる哉、滿洲事變を契機として先づ東亞動亂が勃發した。若しこれが單なる自衛戰なりしならば、滿洲國の獨立を一段落として事變は解決を告げたのであらう。然るに數年ならずして再び今次の事變が勃發し東亞未曾有の大戰に發展したのは、そこに上述の如き已むに已まれぬ歷史的必然性があつたからである。

支那事變の本質に顧みこれが解決の將來を按ずるとき、所謂新秩序の建設は果して東亞に限られた問題であらうか。又東亞のみにて解決

し得る性質のものであらうか。これは誰しも抱く疑問であらねばならぬ。折りも折とて歐洲に大戰が勃發し、今や世界大戰の危機を孕まんとしつゝある。

今次の歐洲大戰を以て單なる英獨の爭覇戰と見るは當らぬ。これは「ベルサイユ」體制に對する獨逸の抗爭であり、現狀維持に對する革新の叫びであり、個人主義、自由主義、民主々義國家群に對する全體主義國家の戰であると見るのが妥當であらう。果して然らば是れ卽ち舊秩序に對する新秩序建設の戰以外の何物でもない。この觀點より歐洲大戰と支那事變とはその本質を同じうし一にして二ならざるものである。宣傳的讒誣中傷は一切これを排し、公平に見て英獨の双方に指摘

すべき幾多の難點があらう。假令如何程多くの難點があらうとも、大戰の世界史的意義がこゝに在ることに何等變りはないのである。

歐洲大戰の前途と日本の地位

歐洲大戰の前途果して如何は頗る興味ある問題である。併し今なほ幾多の未知數を含む現狀に於て前途を豫測することは極めて困難である。就中伊太利、蘇國、米國及び日本の態度が尙明瞭ならざる今日に於て特に然りとする。但し第一次大戰とは大に趣を異にする左の諸點を閑却してはならぬ。卽ち(一)獨に對する包圍封鎖は完璧を期し難きこと(二)西部戰線は決勝戰たり得ざること(三)飛行機潛水艦の發達極

めて顯著なりし結果純海上部隊の威力比較的低下したること。これと同時に潜水艦による海上交通の脅威が英國最大の惱たることは前回と毫も變りない點に留意せねばならぬ。尚最近諾威、丁抹の占領により獨逸の軍事的地位が一段强化されたことは爭はれぬ事實である。

大戰は現に本格的に發展しつゝある。この情勢では最早短期終了の見込なく、相當長期に亘るものと豫想せざるを得ぬ。この場合前回同樣經濟的持久力の優越せる英佛側の勝利に歸すべしと速斷するは危險である。上述の諸點を考慮に入れ前回とは自ら異りたる尺度を以てするの用意が肝要であらう。されば公平なる立場より見て孰れも絶對に優勢なりと斷ずるを得ず有史以來稀有の興味ある大戰といふべきであ

らう。而してこの均衡を打破し得るものは、日、伊、蘇、米の態度である。右の中伊蘇は獨に、米は英佛に好意を寄せるを確實なりとすれば、最後の鍵を握るものは好むと好まざるを問はず我日本を措いて他にないことは自明の理である。

我が政府の歐洲戰不介入方針は當然であるが、大戰の波瀾が東亞に及び戰禍が我が國を冒すに至らば自ら別問題である。危機は迫りつゝある。機を逸せず自衛の構を成すにあらざれば噬臍の悔も及ばぬであらう。況んや上來檢討したる世界的動亂の意義に鑑み、又列國就中大國の利害が東西大戰と緊密不可分の關係にあり、これを切り離して考へ得ざる情勢にあるを思ふとき、將又最後の鍵を握るものは我日本以

外にはなしとの豫感を禁じ得ざるとき、我國としては萬一の變に處する十分の覺悟と準備とを必要とするは云ふまでもない。

所謂覇道も王道も世界平和を確保する所以でないことは歴史の明證する所である。宇宙の原理をそのまゝに八紘一宇凡ゆるものを包容する皇道こそ、世界平和確立の唯一絶對の道なることは我等日本人の確信である。皇國本來の使命は正にこゝにある。要は現在の日本に果して其の實力ありや否やの問題に歸する。世界的動亂解決の鍵は正しくこの一點にかゝつて居る。こゝで我が國防上の地位を明にすべきであるが便宜上別稿に讓りたゞ我が日本の海上國防は大磐石であることを一言するに止める。

物と人と制度

さて覺悟と準備には自ら物心兩面の要素がある。近頃切りに物の不足が訴へられるが、眞に不足するものは幾らもない。大部分は不慣且つ不徹底なる統制の缺陥により自ら招いた不足現象であつて、在る所には事實溢れる程ある。何等悲觀を要しない。眞に不足するものは石油、綿花、機械類、屑鐵位のものであるが、これとても一兩年の内には解決がつき、その間は「ストック」で間に合せることが出來る。又愈〻となれば封鎖の完璧を期し難い我國には自らその途が開ける。更に世界戰爭ともなれば、東亞に現存する資源は當然取つて以て我用に

供することが出來る。周知の通り東亞の資源は我用を辨じて餘りある程豐富である。唯白人國の强奪により現にその所有に歸して居るに過ぎない。東亞新秩序建設の聖業の爲に我國がこれを利用し活用するに何の憚るところがあらう。要するに物の問題は物それ自身よりも寧ろ人と制度の問題である。國家總動員體制が完整し、發動し、國民が眞に國の危機に目覺め個人主義、自由主義、營利主義を一拋して、天皇に歸一し國家に殉ずる熱烈なる忠誠心を以てこれに協力するならば問題の大部分は立ち所に解決するであらう。

さりながら他面物慾には際限がないことを反省せねばならぬ。凡そ物の萬全を期することは古今東西を通じて如何なる國にも如何なる場合にも期待し得ない。戰爭とても同樣、萬全の物的準備を以て、戰爭を始めた例は未だ嘗て聞かない。心的要素即ち精神こそ人間萬事の根本的第一義的要素たることは言ふを俟たぬ。「汝の劍短きを嘆ずる勿れ一歩進んで敵を斬るの勇氣こそ肝要なれ」とは單り武道の戒めのみではあるまい。

結　言

心的覺悟並に準備とは國民擧つて事變の意義に徹し、未曾有の危機に目覺め、皇國本來の使命を自覺してこれが爲には上下一致如何なる犧牲をも厭はぬ決意を固むることに外ならぬ。輕擧盲動は固より戒む

IMT 546

IMT 546

べきも眼前の利害にのみ捉はれて左顧右眄してはならぬ。若し事變の解決捗々しからず、又第三國との交渉意に滿たざることあらば、其は取りも直さず、曠古の危機に對する我等日本人の反省自覺足らず、發憤緊張を缺く我が國內情勢卽ち己が醜い姿の反映なりとして深く自戒自肅せねばならぬ。我が國現下の國情民心は果してこの憾なしとするか。我等日本人は互に人の非違を責むるに先ち、我自らは果して日本人たるの本分を盡しつゝありや、將又我が日々の行爲は神明と祖先に對して恥づるなきやを反省すべきであらう。所謂精神總動員は斯くして始めて成る。自覺反省なき精神總動員はあり得ない。

凡そ日本人の行爲を律するものは大義名分であるが如くに、皇國日本の行動を基礎付けるものは肇國の精神であらねばならぬ。東亞新秩序の建設は國體に淵源し、肇國の精神に合致するものなることは炳として詔勅の明示し給ふ所である。さればこの使命の遂行に一路邁進することこそ萬民翼贊、天業恢弘の實を擧ぐる所以の途なりと確信する次第である。

（昭和十四年十一月二十二日、大日本青年團東京市大會に於ける全國放送講演）

時艱克服の先決問題

一

歐洲大戰愈〻本格的に發展し、支那事變と相俟つて世界大戰の危機目睫に迫り來る。つい先頃までは獨英妥協、大戰終息近しといふもの少からず、所謂消息通間にその說多かりしは恐らく濫讀多聞の結果、不知不識巧妙なる宣傳に乘ぜられしものか。

從來國際情勢の判斷に於て兎角この種の誤斷少からず、事變不擴大、

IMT 546

獨蘇提携、對米關係等皆然り。かゝる誤判斷が今後も繰返さるゝに於ては國の將來を危殆に陷しいるゝの虞なしとせず。猛省を要す。

惟ふにかゝる誤判斷は主として東西大戰に共通なる歷史的意義を徹底的に把握し得ざるが故にあらざるか。

「世界は今や歷史的轉換期に立つ。舊秩序に對する新秩序の戰、卽ち現狀維持に對する革新の戰は、人爲によりて避け難き歷史的必然にして、その信念に於て將又利害に於て到底妥協の餘地なきものなり。舊秩序に沒頭してこの必然性に目覺めずとすれば、戰局の見透しは今後と雖も誤なきを保し難し。」殆い哉。

今一つ注意すべきは近代戰の樣式は根本的に變りたり、武力戰は最

早戰爭の主なるものにあらずとの見解が一般に流行せしも是亦最近の諾威戰に於てその皮相の淺見を暴露せること是なり。經濟戰が効目なきとき武力戰が本格的に發展するは當然にして何等怪しむに足らず。

經濟戰は長期戰となり、結局浪費戰となりて能率的ならず、人類に及ぼす災禍は武力戰よりも却つて莫大なり。天災に見る自然の暴威の如何に破壞を逞しふするかを見よ。必然による戰爭は一種の天災なり、戰に蕊みて春日遲々たる光景は人類の墮落自然の冒瀆にあらずして何ぞ。斯るは天の與する所にあらず。

二

由來希望と現實とは一致せざること多し、事變以來その感特に深し。されば常に最惡の場合を豫想して最善の準備を怠るべからず。古人の所謂人事を盡して天命を待つもの是なり。天命を待つとは神明に誓つて良心の命ずるまゝに最善を盡し、成敗を天に委し俯仰天地に愧ぢざる心境を謂ふ。

さて支那事變未だ解決を見ざるに、歐洲戰が早くも世界戰的推移を示しつゝあるは否み難き現實なり。歴史は繰返す、伊、蘇、米も早晩參戰の可能性あり。歴史的轉換期たるこの大詰に於て最後の鍵を握るものは誰ぞ。我が日本を措いて他に何國かある。是れ決して强がりにあらず、又自惚にもあらず。皇國の國體とその地理的環境による國防

上の地位とが相俟つて自ら然らしむるものなり。卽ち知る是れ皇國天賦の使命なることを。

我固有の實力と現下の國情は果してこの未曾有の時局に對應して克く天賦の使命遂行に堪ふるや否や。吾等は虛心怛懷、先づ以て自己を內省檢討せざるべからず。

我固有の實力として、地理的環境による國防上の地位は極めて優秀なり。近來對米關係の逼迫と共に動もすれば我が海上國防に不安を感ずるものなしとせざるも、大小無數の島嶼を縱橫に連ねて西太平洋に蟠居し、且つ亞細亞大陸に不拔の根據を有する我が地理的環境と、大元帥陛下統率の下に一億國民忠誠の結晶たる百戰不敗の海、陸、空軍

の儼存する限り、我が海上國防は大盤石なることを斷言して憚らず。なほこれに就ては一再ならず海軍大臣の言明もあり、我等は責任ある軍部當局に信頼して可なり。

又近來切りに物資不足の訴を聽くも、眞に不足するものは幾らもなく、事實は統制經濟の缺陷により物が偏在して不足現象を呈するに過ぎず、何等悲觀の要なし。「石油、屑鐵其の他眞に不足するものなきにあらざるも、孰れも遠からず解決すべく、其の間ストックを以て辨ずるを得、又努力次第にて輸入の途あり。更に世界戰爭ともなれば問題は自ら新となり東亞固有の資源は當然取つて以て我用に供し得べし。」周知の通り東亞の資源は東亞民族の用を辨じて餘りあり、現に白人國

の横領により大部分その占有に歸し居るも、東亞新秩序建設の聖業を指導する我國がこれを利用し活用するに何の憚りかこれあらむ。

唯留意を要するは、人間の物慾には際限なきこと是なり。古來物の萬全は期し難し、されば未だ嘗て萬全の物的準備を以て開戰したるを聞かず。物心兩面の要素固よりその一を缺くべからざるも、心的要素こそ根本的第一義的要素たるは言を俟たず。「汝の劍短きを嘆くこと勿れ、一歩踏み込む勇氣こそ肝要なれ」とは豈單り武道の戒のみならんや。

三

最近汪政權が我が全幅の支持により新に成立したるは慶賀に堪へざるも、これを以て直ちに事變解決近きにあり、待望の平和曙光見へたりと早合點すべきにあらず。卒直に云はゞ是れ事變處理の一段階に過ぎず。重慶政權が第三國の支援下に依然として存在する限り、これが討伐壞滅乃至屈服收容は專ら我日本の實力に俟つの外なく、從つて眞の解決は寧ろ今後に於ける我國の努力精進の如何にかゝると謂ふべきなり。而してこれが爲には尙相當長期に亘りて幾多の難關を突破するの準備と覺悟とを新にするを要す。

我が國防上の地位は優秀なり。長期戰と物資の不自由は固より覺悟の上なり。唯この際最も憂慮に堪へざるは現下の國內情勢と國際關係

なり。(一)事變以來政府瀕りに更迭して政局安定を缺き、(二)經濟統制機宜を失して物資偏在、生活不安の聲巷に充ち、(三)政府の威信地に墜ちて國法行はれず、(四)官民相信ぜずして漸く前途の希望を失はんとす。斯くては我が民族の傳統たる献身殉國の精神もその精華を發揮するに由なからん。國內情勢此の如くにして果して克く國家の總力を擧げて聖戰の目的を完遂し、十數萬將兵の忠死と銃後國民の犧牲とを徒爾ならざらしむるを得べきか。

更らに國際關係を見るに、英、米、佛、蘇は何れも明かに新政權を否認し新秩序の建設を阻止せんとしつつあり。然るに從來物資輸入の切なる要求より英米との摩擦を極力避けんとするの餘り媚態これ事と

し、甚しきはこれと提携して事變を解決せんとする傾向すらなしとせず。若し日本にして眞に親英米たり、これに依存するの態度を棄て得ずとせば、我と一體たるべき汪政權も亦然らざるを得ざるべし。斯くて日、汪、蔣共に英米依存たらば、事變解決新秩序の建設は百年河清を待つが如く、何の日かこれが達成を期し得べき。我が外交現下の實情はこれを杞憂として葬り去り得るか。忌憚なく言はゞ、その明白なる矛盾に惱殺されつゝも、眼前の利害に捉はれてその日暮しを爲しつつあるが僞らざる實情にあらざるか。重ねていふ、大戰の歴史的意義は新秩序の建設にあり。されば我が外交の指導方針亦この意義に徹しこの線に沿ふとき、始めて自主的外交の名に愧ぢず、聖戰目的の完遂に

邁進し得べきなり。

内政外交にして現狀の如くんば、我が固有の實力も發揮するに由なく、啻に事變の解決困難なるのみならず、世界大戰に善處するが如き、思ひも寄らざる所なり。

累卵の急局に處する刻下の急務はかゝる行詰りたる現狀を打開し、大戰の意義把握による指導原理の確立により人心を一新し、政治を强化し、國民の忠誠と國家の總力とを擧げて一點に結集する眞の戰時國家體制を確立するに在り。

四

かゝる更始一新の建直しは妥協苟合の能くする所にあらず、區々たる技巧の及ぶ所にあらず、況して宣傳やお祭騒の領域にあらず。眞に未曾有の危機に目覺め、千載一遇の好機に勇躍する我が同胞國民の心からなる反省、自覺、發憤を基礎として築かれたる國民組織の上に、強固なる、如何なる既成勢力にも左右されざる政權が樹立されて始めて可能なり。是れ固より容易の業にあらざるも、時艱克服唯一の途なり。これ以外絶對にその途なきは既往の事績これを實證して餘りあり。

今や時艱克服の責任は直接我等國民の双肩に懸れり。凡そ忠節を盡すは日本人の本分なり、この點何人も人後に落つるものにあらず。この際眞の忠節は一切の行がかりを一抛して協心戮力、更始一新、國内建直しの大業に邁進するより大なるはなしと確信す。

（昭和十五年四月二十三日、（東亞建設國民聯盟結成大會講演原稿）

IMT 546

IMT 546

末次大將に大學生がものを訊く

出席者（質問順）

東京帝國大學　上野　遙君
立教大學　中村　惇郎君
法政大學　岡本紫三郎君
農業大學　持永健太郎君
明治大學　田中　武人君
日本大學　宮原　正行君
拓殖大學　尾本　文彥君
國學院大學　住原　正胤君
中央大學　酒井　淑人君
慶應大學　石津　三良君
早稲田大學　田阪　達郎君
文理科大學　尾谷　正二君

記者　本日はお暑いところをお集り頂きまして有難うございます。聖戰四年を迎へまして、內外の情勢は複雜多端、世界は今大轉換をしようとして居り、

IMT 546

國民は上下協力して、聖戰完遂東亞新秩序の建設に邁進して居ります。この秋この際、學生青年はどんな心構へを持つたらよいか、といふ事につきまして、國家の樞要な地位にをられる末次閣下に御指導をいたゞくことは、誠に光榮の至りに存じます。閣下は時局柄、東奔西走、實に寸暇もない御身を以て、我々のために特にお繰合はせ下され、學生諸君も亦、休暇になつたとはいへ、いろいろの御計畫、御研究の御豫定を差繰つて御出席下すつたことを有難く感謝いたします。問題は、豫じめ諸君から澤山お出しを願つた中から、取敢へず十二だけ選んだのであります。いづれも大きな問題ばかりでありまして、隨分御無理であらうかと思ひますが、質問は、極く簡單明瞭にやつて頂き、閣下からのお答へも適當に御按排下すつて、なるべく最後までお話を頂ければ有難いと思ひます。よろしくどうぞ——

歐洲大戰から學ぶべき點

上野　では僭越ながら私から先に伺はせて頂きます。既に歐洲大戰は、ドイツの徹底的な勝利を以て一段階を終りました。この點、日本の指導者層の一人として御活躍中の末次先生から興亞大業達成の途上にある日本國民が、歐洲大戰から學ぶべき、最も重要なる點を御教示下されば幸ひと思ひます。

末次　歐洲大戰から學ぶべき點は、觀る角度に依つていろ〳〵あらうと思ひますが、第一には國際條約、或は國際公法も、愈々となればスクラップ・ペーパーに過ぎない、實力のない國は結局他の大國の犠牲になる。他力を頼んで國家の安全を保たうとすることは、絶對に不

可能であるといふことが、今度の戰爭で明白に實證された一番大きな點であらうと思ふ。既に今日までにチエッコスロバキヤ、ポーランド、デンマーク、ノルウエー、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグといふやうな國が地圖の上から消えてしまつた譯だ。唯それ等の小國ばかりでなく、相當大國であつても、他力本願に生きて行くといふやうなもの、例へばフランスはイギリスを頼りにし、イギリスはフランスに頼つてゐる。更に英佛は又アメリカを當にしてをつて、それぞれ他力本願である。さういふやうな合從連衡に依つて國家の安全を保ち、民族の發展を維持して行くといふ考へ方は、愈々かうなると他力は頼みにならぬといふことになる。

やはりどこまでも自力で立つて行く。國家の立前はこれでなくてはならぬ。そこでこの頃國防國家體制といふことが喧しくいはれて來た所以だらうと思ふ。それから國としてその國をどうする、この民族をどうするといふはつきりした目標があり、その目標に進むについての指導精神、これがはつきりしてをればをる程、その國の力が存分に發揮されるのではないかと思ふ。ドイツは八千萬のドイツ人を以て、ドイツ民族國家を作るんだ、このドイツ人の文化を以て世界を指導するのだ。かういふ旺んな心意氣を以て立つてをります。

八千萬人のドイツ人を一つに集めて、これが高度の文化を維持し、世界を指導して行くためには、この八千萬ドイツ民族が立ち行くやう

な大地域の經濟圏をどうしても確保しなければならぬ、それに双向ふものは一切打倒して行くといふ固い決意を以てやつてをる。イタリーにしてもムッソリーニがいふが如く、今日のイタリーは地中海の囚人みたいなものである。東はスエズを押へられ、西はジブラルタルを押へられてゐるのでは、生きて行かれない。イタリーが生きて行くためには、昔のローマ大帝國のやうに、地中海といふものを一切自分で掌握しなければならない。地中海は自分の家である。往昔のローマ大帝國を再建するんだといふ覺悟を以て、はつきりした目標に向つて邁進してをる。ムッソリーニの打つ手が必ずしも一々民衆の喝采を博するやうな手でないかも知れぬ。今度の戰爭でも、ドイツと同盟國であり

ながら、戰ふが如く、戰はざるが如く半年以上も引張つて來た。先の目標がはつきりしてゐなければ、イタリー人のやうな氣の短いものは從いて行けない。併し最後の目標はこれだとはつきり示した故に、その爲に必要ならば今回の處置は止むを得ないといふので、一切をムッソリーニに任した譯なんだ。實際、國家民族の進むべき目標が明白に示されてをる國家は勃興する國家であり、ただ現狀を維持し、現在の豐かな生活を續ける以外何の目標をもたぬ國は、勝つたらゴルフをする、勝つたら釣に行きたい、勝つたらクラブに行つてブリッヂをやりたい(笑聲)。そんな低級な奴に世界の前途を委されるか。かういふ惡口をいふものがあるが、それ程ではないにしても、(笑聲)それに似た現狀

維持者が世界に少からずある。

ヒットラー、ムッソリーニ觀

尾本　世界第一次大戰後、ドイツは今日あるを覺悟し、着々と準備を進め、特にヒットラーが政權をとるようになりましてから、軍備、産業、教育、その他諸般の方面に於て活潑なる行動をとり、遂に今回の大戰に於ては卽戰卽決、所謂電擊作戰といふ言葉が用ひられるほど迅速に行動し、勝負を決して注視の的になつてをりますが、このやうな成果を得るに至るやうに一般民衆を、或は青年層を指導したヒットラーの指導方針、或はその態度といふものについて、我々に參考になります點がありましたらお聞かせ頂きたうございます。

末次　ヒットラーが現在やつてをることは、大體「マイン・カンプ」

に載つとるやうに思ふ。あの本を讀んで全部感心する譯ではないが、如何にヒットラーが命を投げ出して、ドイツの立直しにかゝつたかといふことが凡そ分る。ヒットラーは三十未滿の年齢で第一次世界大戰に親しく參加し、二度も負傷をしてをる。最後に聯合軍のために、忍ぶべからざる屈辱的媾和の無慚な場面を見て來てをりますから、心からドイツの敗因について痛切に感じてをる。なほそれ以前に、社會のどん底生活をやつてをる。從つて實際の社會相といふものをよく知つてをる。だから普通に學問し、順當な境遇に育つた人とは違つてをつた。如何なる障礙も突破し、如何なる敵をも打倒する、いつでも戰鬪です。

だから非常に苦勞してゐる、初めはたつた七人の黨員で、自分が七番目とかいふが、それからはずつと演說で叩き上げて來た。その間には、マルクス主義者などの妨害があるので、所謂ナチス突擊隊といふものを作つて徹底的に敵と鬪ふ、恰も軍人が戰場に臨んでをると同じ心構へ、同じやり方でやつて居ります。中途半端な生溫いことをしたのでは、世間の裏の裏を行つてゐるやうなマルクス主義者とか、ジューとかいふやうなものにしてやられるから、一切妥協しない。一切の敵を許さぬといふ戰鬪精神で一貫して居る。

ヒットラーが政權を握つたのが七年前ですが、政權を握ると間もなく議會をやめてしまひ、一切自分の思ふ通りに獨裁者としてやつて來

たのであるが、それが今日のやうな素晴しい國家を作り上げた譯だ。ヒットラーがその當時いつてをるが、獨逸復興のために如何にして武器を充實するかといふことが問題ではない。ドイツの一番大事な問題は、如何にして武器を持つに相應しい人間を作るべきかといふことである。これは精神が一番大事だといふことをいふのに外ならないのであつて、物の問題ではないといふのです。そんなわけで始めは屑のやうな者を集めて選擧演說のやうなことをやつてゐる。併しそれがだんだんと自分について來て結局いゝものになつて來たのだね。ナポレオンが雜兵の中から將軍を作り出したのと同じです。ヒットラーの突擊隊の雜人の中から、今日のやうな幹部の偉いのが續々と出て來たんで

宋次大將に大學生がものを訊く

す。

次にムッソリーニですが、イタリーは前の大戰後すつかり共産主義化して殆ど亡國と同じやうで、どうにもやりようがなかつた。それをムッソリーニが建直した。ある意味に於てヒットラーはムッソリーニに學ぶところが多かつたでせう。それは確か「マイン・カンプ」にも書いてあつた。ムッソリーニを非常に尊敬してをる。ムッソリーニの力に依つて、イタリーは今日非常に立派な國になつた、立派な英雄だと賞め讃へてゐる。その點に於てイタリーはドイツと一脈相通ずる性格があります。

注目すべきソ聯の動向

中村　先程からお話のありましたやうに、歐洲大戦は獨伊の勝利で大體目鼻がつき、また日本が非常に手際よく新東亞の建設を完成致しますと、世界は日本、アメリカ、ドイツ、イタリー、ソヴィエットに分れるやうな結果になると思ひます。

これは經濟の方面からいつても大體證明出來ると思ひます。で、かういふ立場に於て、それよりもつと近い現實として我々が現在遂行してゐる支那事變といふ問題にしても、アメリカとソヴィエットが一番大きな障礙になつてをります。この點からアメリカ、ソヴィエットの接近といふことが、我々の注目の的になつてゐるんぢやないかと思ひます。

末次大將に大學生がものを訊く

ここではアメリカは扨て措きまして、ソ聯の動向といふやうなことについてお話を頂きたいと思ひます。

末次　ソ聯の動向といふことについての見透しはなか〳〵難しいと思ふですがね、ただ周圍の情勢から見て、大體かうぢやないかといふ事はいへないことはない。ソヴィエットは帝政ロシヤ時代から周圍の弱いところへ衝いて出た。バルカン方面、インド、ペルシャ方面、それから極東方面、この三つです。第一次大戰でバルチック海方面を取られたものだから、今日その回復に向つたためにあゝいふ狀況が起つたのですが、あそこを大體手に收めて、これからどこに向つて出るか。極東に衝いて出ようとすれば、日本と一戰をせざるを得ないことになる。

ところが現在は歐洲方面が重大問題なので、ソヴィエットの關心は極東方面より寧ろ歐洲方面にある。

だから今日本と戰をしようと考へてをらぬことはいふまでもない。既にベッサラビアを取返したし、今度はアゼルバイジャンからペルシヤに出て、トルコ方面に出たいといふので狙ひをつけてゐると思ふ。だからドイツ、イタリーなり、日本なりが默認してをれば、あの方面に行くでせう。

そこでこれは外交的にどうなるかは別として、日、獨、伊の提携といふものが再び强化され、或は軍事同盟といふやうなことになつて來

ると、ソ聯がドイツを衝けば日本が背後にをる、日本を衝かうとすればドイツが背後にをる。かうなつちやソヴィエットはやれないから、その中間を南に下るといふ可能性が一番多い。

それは何もアメリカと手を握る必要はない。しかしこれからの各國の合從連衡が如何に出來上るかに依つて、ソヴィエットの動きがまた違つて來ると思ふ。外交國策の大轉換でも行はれ、東亞の情勢が日本に有利になつて來れば、遮二無二日本を邪魔しようといふやうなことはやらぬのぢやないかと思ふ。

中村 結局、ソヴィエットに關する限りは、日本が實力を持つてゐればどうにでもなるといふ譯ですか。

末次 さうです。だから向ふも叩かれたくはないし、こちらもさうですし、そこに國交調整の手があるんぢやないか。私はさう考へてをります。

このソヴィエットとの國交を、共産主義を容認するんだといふやうに解釋して、目の色を變へて怒る人があるけれども、それは一寸見當違ひだ。我が國は國體的に共産主義を容れることは出來ぬ。

併しどこの國家とも現に國交を結んでをる。國交の調整といふものと共産主義の容認といふものとは全然別個のものであつて、共産主義は國内法で取締ります。ただ支那事變解決の三大眼目は善隣友好、共同防共、經濟提携であるから、その一つの共同防共に抵觸するのぢや

ないかといふ事がいへる。如何にも抵觸するやうだけれども、國家の利害休戚はそんな文字で書いた標語や理窟通りにばかりは行かない。その實情に卽して手を考へる、それが外交だらうと思ふ。

列强の援蔣行爲と重慶政府の將來

住原　次にお伺ひ申上げたいのは「列强の援蔣行爲と、重慶政府の將來」といふ事に就いてでありますが、先頃、四川省の門戸といはれる宜昌は落ち、日本の連續的な爆擊に依つて、重慶政府は非常な戰慄狀態に置かれてゐる矢先、歐洲大戰の第一次的な段階が終りました。この時東亞に於ては佛印の援蔣ルートは遮斷され、雲南、ビルマ、香港のルートも閉塞されようとしてをりますが、これに依つて重慶政府も大きな打擊を蒙つてゐる模樣であります。かうなつて來た以上は、蔣介石も早晩は我が軍門に降らなければならないのぢやないかと思つてをります。それについて閣下の御意見を拜聽したいと存じます。

末次　重慶政府の抗戰力は第三國の後援如何に依るもので、その援蔣第三國を排除することが出來れば、立ちどころに參ることは明白なんだ。ところが今迄それがてきばきと行かなかつたために、いつまで經つても參らなかつた實情であつた。で歐洲戰の最近の發展が、自ら支那問題に非常な影響を及ぼして來たので、英佛の援助が殆どいふに足らないものとなり、アメリカも實力を以て助けることは出來ない。

IMT 546

IMT 546

佛領印度からの援蔣ルートは明白に遮斷され、香港からのルートも遮斷された譯で、殘つてゐるのは雲南、ビルマのルートでありますが、こいつがなか〳〵難しい。イギリスがうんといつてもこの監督はなかなか骨が折れる譯だ。けれどもこのルートは非常に道が惡く、これから雨季になると幾らも物は入らぬでせう。

それからソヴィエットのルートと、その外沿岸の凡ゆる小さな港に至るまで、何物かを入れてをる。併しこれ等は知れたものでせう。從つていま蔣介石政權が弱つてゐるといふことは事實なんです。英米あたりには日本も弱つてゐると觀るものがあるが、併しこれは比較にならないものである。蔣介石政權の弱り方とは段違ひです。ですからこ

の儘で行つたら間もなく參るでせう。

唯問題は今度汪精衛政權といふものが新たに出來たが、それが事變の解決、重慶政府とどういふ關係があるかといふことが一寸諒解し難い問題だと思ふ。結局は日本の實力以外に解決するものは何もない。だから日本の實力が、重慶政權を徹底的に處理する力を發揮する。戰鬪力の方面でもよし、第三國との交渉を斷つ方面でもよし、恐らくその兩方の手に依らなければなるまい。

米國建艦の肚

岡本　次に米國に於ける今次建艦の目的がどこにあるか、甚だ注目すべきだ

と思ひますが、これは單にルーズベルトのいふやうに、所謂全體主義國家の攻勢に對する自由の確保、西半球の防衛といふやうな退嬰的消極的なものではなく、現に東洋に於ては英佛に代つてその役割を買つて出てをります。更にハワイに太平洋艦隊を集結するといふやうなやり方、かうした事を綜合して考へる時に、あの大建艦の目的は、日本に對して敵意を持ち、東亞に於ける日本の行動を抑制せんとする積極的な意圖を含んだものと考へるのですが、如何なものでせうか。

末次　それはもうその通りですね。大體今までアメリカの海軍政策といふものは、世界の何れの國にも劣らない、卽ち世界第一の海軍力を作つて、太平洋、大西洋、いづれの海に於ても戰鬪出來るような海

軍にしたいといふ事が建前であつたのです。ところが今度の歐洲戰及び支那事變といふやうな世界の一大變局に同時にぶつかつてみると、そんな海軍ぢやどうにもならない。現在の實情はどうかといふと、英佛が東亞から手を引かざるを得ない羽目になつた爲、その後をアメリカが受繼いで、日本を監視するやうな態度に出た。

そこで始めから太平洋にをつた全海軍力を更めてハワイに集結し、戰時動員をやつていつでも戰の出來るような構へをしてをるし、空軍もそれに協同出來るような配備をしてをる。そこに歐洲の戰局が急に發展して來た爲、助けに行かうにも既に間に合はない。まご〳〵してをればイギリスはやられてしまふかも知れないといふ。ゐても立つて

もゐられないやうな場面にぶつかつた譯です。所謂ヂレンマといふのが今のアメリカの立場です。これは自業自得でせうな。（笑聲）

そしてそれではやり切れぬから、金のあるのに委せて太平洋、大西洋の兩洋に別々に大きな艦隊を作る。太平洋の艦隊は無論日本を假想敵とした肚に違ひない。これは明白である。

併しそれが愈々實行となると、これは自ら別問題だ。この前の世界大戰の時でも、恐ろしく厖大な建艦計畫を立て、六ケ年計畫を以て議會の協贊を經たが、實行豫算は年々更めて一年限り協贊して行くのだから、一九一八年の十一月に休戰條約が成立すると、もうそんな海軍を作つたつて仕樣がないといふので、その次からは協贊しなくなる。

さうすると忽ち消えてなくなる。で、今の世界戰爭がいつまでかゝるか知らぬが、活潑に進んでをる間はやるでせう。

併しいまイギリスが參つたといふやうな事になると、又どうなるか分らないのだ。（笑聲）だからそんなに心配することはないよ。（笑聲）靜かに見てをつて、ものになりさうな時にこちらもやればよい。

國防上より觀たる帝國海軍

酒井　次に歐洲大戰の餘波を受けて、益々南太平洋、西南アジアの問題が重要視されて來ました今日、太平洋を繞る諸列强との關係は愈々複雜となつて參りまして、太平洋の波高しの感を强く致しますが、事變處理問題に伴ふ今後の

末次大將に大學生がものを訊く

太平洋問題に處して、國防的見地より帝國海軍が如何にして國防の安定を樹立し、制海權の確保をなさんとするかについてお伺ひ致したいと存じます。

末次　これは私、凡ゆる機會にいつてゐるんですがね、日本の海軍の實力について相當不安を抱いてをる人があるやうに思ふ。それは大丈夫だと私がいふと、また强がりや自惚れをいふといふけれども、(笑聲)そんなことは絶對にない。

今では世界一の海軍はアメリカだけれども、それが全力を以てハワイに粘つてをる。そして空軍の全力を以て、即ち海軍、空軍共同して日本に對する戰備を整へてゐる。それほど日本の海軍は恐るべき存在なんですよ。(笑聲)

若しその日本が物がないために參つてしまふ國ならばその必要はない。石油を停める、機械を停める、スクラップを停める、棉を停める、それは日米通商條約の一方的廢棄に依つて、いつでも停められるのだが、それぢや參らぬから實力を全部傾倒して日本を捕まへてをる譯なんだ。それだけの力がこつちにはあるんだ。(笑聲)アメリカ自身がこれを證明してゐるんだから、それ以上の證明はいらぬ。(笑聲)

それから地形と國防といふものは非常に密接な關係がある。委任統治の南洋群島などは、全部集めても神奈川縣程の面積しかないから大した事はないんだが、併し軍事上には非常に必要な島々である。あの島々を握つてゐるお蔭で日本の國防が安固であるのみならず、太平洋

の平和が保たれてをる。あれを外國に握られたとすると、日本に對する非常な脅威になる。あの群島には六百五十からの島があつて、中には下らない珊瑚礁もあるけれども、立派な珊瑚礁になると、大艦隊が入つても餘裕綽々たる泊地があります。さういふやうな島は數へ立てるといくらもあるのだ。

だから優勢な海軍を以て、いきなり日本にかゝつて來たつて駄目だらう。こちらの守りが固いのだから。丁度ノルウエーからオランダ、ベルギーの海岸へかけて、イギリスの艦隊が活動しようとしても無理なのであつて、また現に地中海でイタリーの空軍のためにさん〳〵に惱まされてをるが、まあ、あれと同じやうなことが起つて來るのだ。

――その樣な守りの固いところへ無理に來れば直ぐやられるから、非常な犧牲を拂はねばならぬ。さうしてバランスの破れた時に日本の大艦隊が衝いて出れば一擧に負けてしまふ。（笑聲）容易に來れるところぢやない。

それなら印度洋の方から來れるぢやないかといふ事になるんだが、今日、臺灣から海南島、新南群島まで領土が伸びてをるから、これを横に見ながら攻めて來るのは大變です。始終側背を痛められるから。だから日本の國防上の地位といふものは、日本の海軍――水上艦隊、潜水艦、それに空軍、更に世界屈指の陸軍、この陸、海、空の三軍が立體的の防禦をこの地形の上に施して守備を固めてをれば大盤石、何

も心配はない。

亞細亞ブロックとしての南洋の重要性

持永 次に最近話題になつてをります南洋のことについて一寸お伺ひしてみたいと思ひます。先程もお話がありましたやうに、今度の歐洲大戰がもしドイツの勝利を以て終るといふことになりますと、私は當然植民地は再構成され、世界はいくつかの强力なブロックの對立に依つて形成されると思ひます。これに關聯して、アジアブロックに於ては南洋の重要性が問題にされることであらうと存じます。それについて我々に明確な認識が必要であると思ひます。それと共に、アジアブロックとしての南洋は、地理的にいひますとどの程度まで包括されるかといふことも、出來ればお願ひしたいと思ひます。

末次 滿洲事變の當時は頻りと日滿支ブロックといふことをいうてをつた。併し、日滿支を連ねたところで、經濟的に所謂アウタルキー(自給自足)の體制が充分であるとはいへない。ところが南洋へ行けばゴムあり、油あり、錫あり、銅あり、鐵あり、それから南洋特產の植物ありです。これが入らなければ實際の經濟自給圈といふものは成り立たない。今の南洋で資源の豐富な地域はやはり蘭領印度でせう。それから佛領印度支那等を併せ考ふる時、日本が欲するやうなものは何一つとして辨じないものはありません。タングステンといふやうな特殊鑛物があり、或は米とか砂糖とかいふやうなものは一切不便を感じなくなる。現在世界の大國で熱帶に植民地を持たないところはソヴィ

末次大將に大學生がものを訊く

エットくらゐのものである。

東亞新秩序の建設

石津　最近東亞モンロー主義といふやうな言葉がちよいちよい見られるようになりました。あれは興亞大業の見地から見れば不穩當な言葉だらうと思ひます。東亞新秩序といふものは單なる地域的なものぢやなく、民族的、政治的、經濟的の完全な共同體でなければならないと思ひます。共同體といつても結局そこに中心になるべきものは日本で、さういふ日本の立場、指導理念といふやうなものに關して、先生の經綸をお伺ひしたいと思ひます。

末次　今までの東亞は大體英米佛、ソ聯によつて支配されてをつた

東亞であつた。その支配を受けてゐないのは、日本ぐらゐのものである。

後はタイ國が獨立國であるけれども、一番大面積を占めてゐる支那だつて、政治的にも、經濟的にも殆ど白人の植民地だ。さういふ今までの政治、經濟上の歐米の支配力といふものは、どうしたつて一掃しなければ新しい秩序は出來るものぢやない。

それには地域的、民族的の國家群を新に作り、日本がその指導的立場に立つ、これはドイツの理念とよく似てゐると思ひます。然らば一體何を狙ふのかといふと、東洋には東洋固有の精神文化があり、これは種類が違ふだけで非常に高い世界の文化だ。それを引き立てゝ東西

文化の融合大成を圖るのが日本の使命である。

それを達成する爲には經濟的の地盤を確保し、他の民族に劣らざる、天の惠みを受けるようにしなければならない。

これが八紘一宇の第一歩だ。新秩序といふものは大體さういふものだらうと思ひます。だからモンロー主義ぢやありません。モンロー主義といふものは現在ある狀態をその儘維持し、餘所から侵されないようにしようといふのである。

東亞新秩序といふのはそんな利己的なものぢやない、もつと大きなものだ。今までの間違ひをこの機會に是正して、さうして東亞に與へられた土地、人民、資源を以つて、新なる生き甲斐のある民族國家を

作る。それにはちやんと日本といふ立派な指導力があるのだから、日本が中心になつて指導して行く、かういふ意味なんです。

日支兩國民の提携に就いて

田中　次にその新秩序を達成する爲には、どうしても母體となる國民といふものがお互ひに提携して行かなければならない。で、當面の問題として是非とも日支の國民同志が提携して行かねばならぬと思ひますが、それには單なる善隣友好といつたやうな抽象的な觀念上のことでなく、もつと實際的な永遠に文化の違ふ、民族の違ふ兩國民が提携して行く上に於て、どういふ風な態度で行つたらいゝか、最も重要な點をお話して頂きたいと思ひます。

末次大將に大學生がものを訊く

末次　支那人といふものは五千年の文化を持つた國民で、戰をすれば弱いけれども、文化の點に於ては日本の方が後輩だと思つてゐる。併し實際如何なる文化があるかといへば、文字の上に現れた以外は、大した文化は殘つてをらぬと思ひます。併し彼等はさういふ誇りを持つてをるので、だからこの彼等の誇りを傷つけないようにして、支那人には支那人の誇りを持たせながら、そのところを得せしめるような、やり方があると思ひます。

ところが日本人は何でも自分の思ふやうに、押しつけなければ承知しないから面白く行かない。今度の占領地でも宣撫工作をやつてゐるが、これ等も餘程考へなければならぬ。「いろは」を教へたり、「ハナ、

ハト」を覺えさせたりして日支提携が出來ると簡單に思つたら、大間違ひだ。

彼等は歴史的な背景によつて養はれた長い實生活を體驗してをるのだから、惡いところが多々ある代りに、また支配者が何であらうとも生き拔く力を持つてをる。日支の提携なくしてはアジアの復興はないので、アジアの復興なくして有色民族の幸福、榮光はあり得ない。それは支那の識者もよく分つてゐるので、誰一人異存がない。さういふ大きなところで提携して行つて、小さいところはつつかぬがいゝ。だから元の重臣が、百善を興すより一惡を除くに如かずといつたが、千古の至言と謂ふべきであらう。

上野　さうすると精神的方面より經濟的方面から生活の改善をやつて行くのがいゝのですね。

末次　それが一番早道だ。ですからあちらでやつてゐる日本の同仁病院なんかでも非常な信頼ですよ。料金は安くて、技術が優秀で親切で、あゝいふ方面から入つて行かなければ嘘だ。

英米人やソヴィエット人が日本人に頭が上らないくらゐになれば、何ともいはなくても頭を下げて來る。英米人に頭が上らなくて支那人に威張つても駄目だ。

新政治體制は如何にあるべきか

田阪　少し方面を變へまして、最近問題になつてゐる新政治體制といふことについて伺ひたいと思ひます。今日、日本が東亞新秩序の建設を首め、内外に亙る種々な國策を完全に遂行する爲には、政治、經濟、國防、國民生活といつたやうな、あらゆるものを擧國一致の體制に持つて行く、これが最も焦眉の問題だと思ひます。特にその中で政治體制の確立といふ問題が、あらゆる問題に先んじて行はれなければならぬ、最も緊急の問題だと思ひます。そこで私は、今日の問題になつてゐる政治體制、新黨問題の動向といふやうなことでなく、先生がお考へになる新時代の新情勢に即應すべき新しい政治體制は、どうあるべきであるかといふやうなことに對しまして、御理想をお伺ひしたいと思ひます。

末次　これは非常に難しい問題です。新政治體制を、ただ形式の上

IMT 546

IMT 546

からいふならば甲乙丙丁、いろ〳〵な案が立つて、而もどれも一長一短があると思ひます。けれども私の信ずるところは形式の上ぢやなくて、如何にしたならば統一ある實行力を持ち得るかといふ點だと思ひます。

明治維新の前に公武合體論が起つて天下を風靡したけれども、どうしてもうまく行かなかつた。當時外國との關係が面倒になつて、公武合體でもいかぬ、これはやはり王政復古でなければいかぬ。一切の政權は朝廷に歸すべきであるといふ尊皇と攘夷を結びつけた議論が起つた。併し攘夷をやつてみると巧く行かない。長州が聯合艦隊と戰つてひどい目に遭つた。薩摩でも英國と戰さをやつてみたが向ふの方が上

手で巧く行かない。そこで、とにかく先づ以て日本を一君萬民の、昔ながらの國體に建て直すのが何よりの急務だといふので尊皇倒幕となり、攘夷がいつの間にか陰に隱れてしまつた。そこで鳥羽の一戰が契機となつて錦の御旗が進められ、幕府が倒れて新秩序が作られた。で今日、政府と立法府と、政府と軍部と、それから政府それ自體が巧く行きさへすれば問題はないです。その根本さへ直せば政治體制の組織など第二次的の問題だと思ひます。例へば今日の支那事變のやうに大戰爭をやつてをる時局には、戰略と政略といふものが一元的に統一されなければ戰さは行はれない、そこが難しい點で、それを直しさへすれば形式なんか自ら出來上る。問題の根本はそこにあるので、近衞さ

んの本當の惱みもそこだと思ひますね。

スメラ學塾について

宮原　私は先生が主宰されてゐるスメラ學塾についてお伺ひしたいと思ひます。私共考へますと、これこそ先生の御信念と御理想との具體的實現の一つであり、先生の畢生の御事業ではないかと思ふ譯です。學生問に於きましても、大學教育、青年教育といふやうな、將來の學生、青年の問題につき、或はその他の見地から非常に深い關心を持つてゐるのでありまして、スメラ學塾の本質といふか、つまり御創立の趣旨、及び目的、又は指導原理ともいふべきものを一つお伺ひしたいと思ひます。

末次　これは實は私の創意で創めたものぢやありません。十數年前

から今日の日本の學問に不滿を持つてをる人達が少からぬ數に上り、例の國民精神文化研究所とか、大東文化研究所とかいふ方面にも相當をるし、官界、實業界、外交界、言論界、或は放送局邊りにもをる。何が不滿かといふと、學校はただ西洋の學問を切り賣りするに過ぎない、それを鵜呑みにしたところで何の役にも立たない、日本の歷史的使命も世界觀も、世界政策も何も分らない、何の爲の學問か分らずに出る、だから、出てみると詰まらないことばかりである。こんな筈ぢやなかつたといふやうな譯で、頗る張り合ひがない。

つまり學問をやりながら何の感激も何の發奮も起らない。さうして卒業期が近づけば就職々々で少しでも條件のいゝ所に行く。これで一

體大學教育を受けた我々としていいのであらうかといふところに非常な煩悶を覺える。

そこで卒業した人達がこれぢやならぬといろ〳〵苦心した結果が、日本の學問の體系を建て直さなければならない。西洋の學問の鵜呑みぢやいかぬ。神武天皇以降でも二千六百年だ、その以前に遡れば、スメラ文化といふ、非常な大地域に渡つての文化があつたといふ話だ、その正統をずつと引繼いでをるのが日本で、今日まで皇御國として榮えてをる、それが日本文化である。

須らくスメラ學を再興して、この皇御國の學問の體系といふものを新に作らなければならない。かういふ抱負を持つてをつて、種々と學

問の體系をいま建てつゝあるところなんです。さうして一通り形が出來たので、それぢや一つこれを以て知識階級に問ひたいといふ譯で、その實行に一歩踏み出した譯なんです。それで質のいゝ、少くも大學もしくはこれに準ずる程度の學問をした若い人を集めてみようといふので三百人募集したところが、期日までに一千二百人程あつたのです。それから續々とあり結局千五、六百人あつたらしい、その中から七百人とつたのですね。數十人の女も入つてゐます。大學の學生が百五十人くらゐあつた。それから官吏、會社員、新聞記者、お醫者さん、それから各種團體の指導をやつてをる人とか、さういつたいろ〳〵な人が入つてゐます。

その眞劍な人達七百人で愈々始めることになつた。併し誰か然るべき者を頭に据ゑなければいかぬといふので、吾輩を狙つて來たのだ。いふことが面白いから、私、引受けた。（笑聲）

普通ならばやれ顧問だとか、やれ評議員だとか、やれ理事だとかいつてずらつと並べる。まるで人の名前ばかり並んでゐるのがあるが、あれはやりたくない、貴方一人が塾頭になつてくれといふ。

それから訊いてみると今のやうな話で、私の信念、理想にぴつたり合致する、無論よからう、それならロボットになるから好きなように利用せいといつてやつた。（笑聲）

やつてみると非常に眞劍です。塾生も講師も非常に熱心なものだ。いゝものになるだらう。もつと組織化してくれといふことで頻りに話を進めてゐるが――。

宮原　聞けば將來は大學までにするとかいふことですが。

末次　そんなことをすると金がかゝつていかぬから、金のかゝらぬようにしてやつてゐる。（笑聲）大阪にも開いて呉れと熱心な希望者がある、將來は相當立派なものになるでせう。

興亞大業を背負ふべき學生青年の心構

尾谷　私は新しい時代を背負つて立つべき日本の教育は如何にあつたらよいのか。またその教育のモットーとするところの、その教育によつて指導される

IMT 546

學生、青年は如何なる心構へによつて今後生きて行かなければならないかといふことについてお伺ひしたいと思ひます。

私どもは少年時代に誇りと感激をもつて日本魂を教へ込まれ、それが成人するに從ひ、又は高い學問をするに從つてだん〳〵薄らいで來た、それは社會教育、文化教育の缺陷でもあるが、學生自身の自己批判も足らなかつたと思ひますが——。

末次　さうだな、現狀の樣な混沌たる世相では大學生あたりも如何なる覺悟を持つていいか分らなくなるだらう。要するに日本人たる誇りを持ち得ないような學生であり、青年であつたら、國家の爲に有用な材にはなり得ないと思ひますね。

日本民族は世界の優秀民族の中で一體どういふ地位を占め、どういふ使命を持つてをるのか、それをはつきり摑んでをれば迷ふことはない。學校の教育もそこに指鍼を見出だすべきぢやないかと思ふ。ただ抽象的のモットーを擧げたり、いざ教へる時にはただ歐米の學問の切り賣りだといふことになるから、いつまで經つても彼等に先んじ得ない。

マルクス主義が流行するといふのは、學校の教育が結局死んでをるので、我々が日本の前途を背負つて、一體どうしたらいゝのか、俺が學んでをるこの專門の學問は、日本の將來のどの部門を擔當し、如何にして全體の上に貢獻し得るのであるか、かういふことさへ確りして

をれば、どの分科に屬しようとも構はない。專門の學問もいゝが、狹いところに一生を費してゐるばかりが生活ではない。國の目標、民族の目標といふものがそこにはつきりと示されることが必要だ。さうすれば非常な感激、發奮を以て、日々仕事が出來ると思ふ。

上野　國民全體も結局それを望んでゐるのではないですか。

末次　さうだ。とかく高遠な、神がかり式の理窟をつけるから分らなくなつたり反感を持つたりする。もつと通俗的に、誰にも分るような目標を立てればいゝ。

ヒットラーにいはせれば、八千萬のドイツ民族を一つに固めて、これで世界の文化に貢獻するのだといふ。ムッソリーニは古代ローマ帝

國を再建するといふ。少し芝居がかりだけれども、それでも分る。はつきりとね。

尾谷　教育と政治といふものが非常に關係深くなつて來ます。

末次　學問に生命がなければいかぬ。ここに日本の教育政策の眞劍な問題があると思ふ。

記者　有難うございました。本日は大變結構なお話を頂きまして一同の光榮とするところであります。一つ〳〵について申すと、なほ慾がありませうが、問題が多いために、矢繼ぎ早の質問攻めといふことになりまして、誠に申譯ない次第でありました。

併し一つ〳〵懇切明快なるお答へを賜はり、而も全部に亙つて御高論を仰ぎ

得ましたことは、一同の感謝に堪へぬところであります。雑誌を通して全國の學生、青年がこの記事によつて感動感激を受けるところは、又一段のものがあらうと信じます。厚く御禮申し上げます。

（昭和十五年七月十五日、於講談社）

IMT 546

東亞安定と日本の決意

事變延引の根本原因

我が國が、現に直面して居る重要なる問題は多々あるが、こゝでは當面の支那事變解決を、如何に促進するか、また我が日本の實力果して如何、この二つの問題を中心として、率直に卑見を陳べることにする。

さて、支那事變の解決促進に就いては、國民の一人殘らずが非常に

IMT 546

心を惱まして居るように思ふ。その關心の要點は、一體事變は何時解決するのであるか、事變の現段階はどの邊にあるのであるか――といふ點に他ならぬのである。それについては、先づ以て、聖戰以來滿三年有餘、かやうに事變が延引を重ねた根本原因は何處にあるのか、その原因の核心をつき止めて見る必要がある。

これは見る人の立場により自ら異つた所見が生れて來ると思ふが、私の見るところでは、少くとも四つの原因を擧げることが出來る。その第一は、我が日本は事變に對して極めて不準備であつたばかりでなく、甚だしく不決斷であつたことだ。何となれば、滿洲事變を經、國際聯盟を脱退し、上海事變を戰つた後であり、且つまた、蔣介石が十

數年に亙つて、徹底的に排日、抗日意識を植付けて居つたのであるから、早晩何事か起るといふことは、豫期しなければならぬことであつた。しかも、その徵候歴然たるものがあつたのである。然るにも拘らず、漫然これに臨んで、現地解決、不擴大主義を採らうとした。こゝに準備と決斷の大なる不足があつたと思ふ。

その他にも例はいくらもある。今更及ばぬことであるが、戰火が上海に飛び、蔣介石が日本に對して攻勢をとつて出て來てゐる以上、どうしても肚を決めなければならなかつたのではないか。では如何に肚を決めるか。それは宣戰を布告するか、交戰權の全面的行使を布告するか、孰れにしろ、思ひ切つた手の打ち方があつたと思ふ。然るに、

戰火は北支から中支に、更に南支にと移りながら、依然事變で通さうとする。何處までも事變であるため、屢々思はぬ困難に逢着せねばならなかつた。あれ程の大戰爭であれば逸早く戰禍を避けない限り、側杖を食ふのは當然であるが、第三國はこゝぞと文句をつける。損害賠償を云々する。また我が海軍は海上の航行遮斷をやつてゐるにもかゝはらず、第三國の商船は、援蔣補給の武器や彈藥を滿載して、目の前を通つて行く。それをたゞ拱手傍觀するのみで、如何ともすることが出來ない狀態であつた。更にまた天津、上海のごとき租界は、蔣介石政權の抗戰策源地であることは、明白な事實であるに拘らず、いつまでも手がつけられない。戰爭にあらざるが故に、事變なるが故に、殘

念ながら手がつけられないのである。

今度の事變は有史以來の大戰爭である。東洋に於ては無論のこと、世界史上にも比類が少ないばかりか、將來に於てもこんな大戰爭は滅多にないであらう。從つて、我が日本は、國の總力を擧げて、この事變解決に對處邁進しなければならぬ。しかるに國家の總力戰體制はどうであるか、昭和十三年春の議會に於て、國家總動員法案が如何に行惱んだかは、世人の記憶に生々しい。これ等の事實は、我が國の今次事變に對する不準備と不決斷を立證して居ると云つても過言ではないであらう。

四つの原因を一掃せよ

事變延引第二の原因は、今次事變の眞の意義が國民の各階層に徹底してゐない憾みがあることだ。一例をあげれば、闇取引のごときが、それである。

今更云ふまでもなく、今次の事變は歴史的必然の所産である。今までの舊秩序が一掃されて、新たなる秩序が建設されんとする戰ひである。その新秩序建設の先頭に起つたのは日本人であつて、滿洲事變なるものが、抑々この事變の先驅をなして居るのである。また歐羅巴ではこれと同じ意味に於て、ドイツが歐洲に新秩序を建設し、世界に新

しい秩序を布かんがために、戰つてゐるのである。

惟ふに、東亞の新秩序建設は、砂上の樓閣であつてはならぬ。必ずや確乎たる基礎工事の上に建設されなければならぬ。確乎たる基礎工事とは、東亞の自給自足經濟圏を確立することにほかならない。即ち「自活圏、生命圏確保の戰爭であるといふ意義が、國民の各階各層に徹底するならば、生命を君國の爲に捧ぐるは正に此の秋なりといふ覺悟が、起らなければならない筈である。だが、顧みて甚だ遺憾の點が多い。

精動に對しても觀念論ばかりで、具體的なものが伴はないといふ不平を聞くが、確かに具體的な方法も必要であらう。しかし末梢的なこ

とよりも、根本精神の建直し、卽ち時局を徹底的に認識し、一切を君國に捧げるといふ精神の建直しが、精動の本當の狙ひでなければならない。

第三には、支那の抗日意識が、普及し徹底して居ることだ。これは恐るべき事實である。支那の少年が數個の手榴彈を提げて、我が堅固な陣地の前に平氣で突進してくる。かういふ一身を捧げたところの勇氣といふものは、信念からでなければ出て來るものではない。それほど蔣介石政權の抗日教育は普及し、抗日意識は徹底して居る。

更に第四には、第三國の支那支援である。支那が獨力で日本に抗する力のないことは明瞭であるが、今日に到るまで依然として、抗日を

續けて居る所以は、全く第三國の物質的、精神的支援があるからである。

以上、四つの原因が一掃されるならば、今次支那事變は、忽ち解決の運びとなるであらう。全部でなくても、その中の一つでも二つでも徹底的に改善されれば、これまた事變の解決を大いに促進し得るであらう。何となれば、この四つの原因は、相互に密接不可分の關係にあるからである。

事變の解決促進の手段

さて、事變は現に如何なる段階にあるか。

私の見るところでは、既に終末の段階に近づきつゝあると思ふ。近頃の情報によれば、支那軍の武器は極めて乏しく、野砲のごときは殆どない。迫撃砲、機關銃等はまだ相當あるが、小銃などは一人々々に行渡つて居らない。我が日本軍の裝備に比ぶれば全く比較にならぬほど貧弱である。これ等の消息は、武器彈藥が十分に手に入らぬことを實證して居るのであるが、同時に食物にも不自由し、物資缺乏にも困憊してゐる事實がある。なほその上に歐洲動亂以來、英佛が東亞から手を退いたこと、この機會を逃さず、日本が香港を始め、佛領印度支那、ビルマ、或はまた沿岸の小さな港灣等の援蔣輸血路を徹底的に遮斷したこと、更に一方、わが海、陸荒鷲の連日に亙る重慶その他の主

要部爆撃が、熾烈であること等のために、蔣介石政權は致命的の打撃を蒙り、その結果、近頃は重慶にも和平論が頻りに擡頭して居るようである。

かゝる事實、及び情報を綜合して考ふるに、蔣介石政權が斷末魔の氣息奄々たる喘ぎを、辛うじて續けてゐる狀態であることは、間違ひがない。しかし非常に弱つて居ると云つても、このまゝ荏苒日を送つて居つたのでは容易に解決はつかない。この弱つてゐる際にこそ、一氣に死命を制するため、斷乎たる積極的な手段が講じられなければならぬ。

その積極的な手段について、二三の例をあげれば、何處までも徹底

的に討伐することが、その一つだ。守勢をとつてゐては、敵の生命を存續させるだけであるから、こゝぞといふ所に全精力を注いで攻勢をとる。かういふ方法が先づ考へられなければならない。

次に、第三國の交通を、なほ一層徹底的に遮斷すること。イギリスやアメリカの機嫌を如何に損じようが、そんな事に頓着せず思ひ切つて斷行しなければ完全なる交通遮斷は望めない。しかもこの事は、日本は少しも英米を恐るゝものでない、支那を徹底的に叩く爲には、如何なる手段をも辭せざることを如實に敵に示すもので、直接の效果に劣らぬ間接的の效果を期待し得るのである。

その他、種々の手がある。實力をもつて租界を回收するといふ手もあれば、香港は元來が敵の策源地であるから、イギリスに立退いてくれと要求する手もあらう。或は謂はゆる、東亞の經濟圏を確立する爲に、南洋方面に進出するといふ水際立つた手段もあると思ふ。

熟慮反省すべき要點

更に、いま一つの手段は、國際關係の根本的改善である。根本的改善と云つても、どこの國とも仲よくしろ、八方美人で行けといふ意味ではない。事變を解決し、東亞の新秩序を建設し、それによつて世界の建直しを敢行しようといふには、事前に何處が味方で、何處が敵であるか、その限界をはつきり認識しなければ、出來る筈がない。敵性

國家の明白なるがごとく、同じ使命の下に、同じ目的に進んでゐる國と、提携しなければならぬといふことも、また明白である。動もすれば英米に對する媚態の不可なるが如く、獨伊に對する媚態も亦排すべしといふものがあるが、さういふ意味ではなく、戰爭目的の遂行上、何れの國と提携して行くべきかを、國策として決める必要があるといふ意味である。英米を一方に載せ、更に獨伊を他の一方に載せて、天秤的に双方をうまく操つてやつて行かうなどといふ事では、この國家重大な時局を切拔けることは六ケ敷い。もつと大膽率直に、日本の眞意を內外に宣明し、國を賭して、この難關を突破するのだといふ決意を明かにすることによつて、今日の外交の危機が始て打開出來るのだ

と私は確信して居る。

それから、もう一つは蔣介石との直接交渉といふ手である。現在、汪精衛政權と交渉を續けて居り、順調に進んでゐるのは寔に結構であるが、汪政權と如何に立派な和平協定が出來たところで、一方に蔣介石政權が存在し、依然として抗日を續けてゐる間は、事變の完全なる解決とは云へないし、又それは絕對に出來ない。

昭和十三年一月十六日、近衛聲明に「國民政府を相手とせず——」といふ一節があるが、その年の十一月三日の近衛聲明には「國民政府と雖も、從來の政策を一擲して、更生の實を擧げ、新秩序の建設に來り參ずるならば、日本は敢てこれを拒否するものではない——」といふ

ことを、はつきり言つて居るのであるから、蔣介石政權との直接交渉が出來ぬ謂はれはない。而も時々刻々、變つて行くところの世界情勢に對應するために、事變の解決が焦眉の急なりとせば、蔣政權との直接交渉といふことにつき、相當熟慮すべきであらうと思ふ。

事變の解決に關し、更に一歩踏み込んで、我が國を見直せば、今までの經濟が國策の根本を左右して來たこと、謂はゆる經濟至上主義が事變を永引かせたのだとも云ひ得られる。

何となれば、經濟によつて總てのものが動くからだ。總てのものが算盤で動くからだ。金はこれだけ、物はこれだけしかないといふので、物や金で政治の動きを一々抑制する。若し今後の軍事行動も經濟によつて一々左右されるといふことであれば、この事變は恐らく永久に目鼻がつかず、解決はのぞまれないかも知れぬ。その點は深く國民の反省を促したい。今日、新體制の問題が喧しいが、當面の支那事變を、速かに解決するといふ眞劍味を伴ふところに、新體制成立の眞の意義を認めたいのである。

國防上から見た南洋群島の價値

次には、日本の國防上の地位について、檢討して見たい。

先づ、地理的に考察すれば、日本は北は千島から南は臺灣まで延長二千五、六百浬に亙り、今日では、これが海南島に飛び、新南群島に

まで延び、恰もアジアの東から東南にかけてアジア大陸を取巻いて居る。ただ單に取巻くのみならず、朝鮮といふ瑞りした橋が架かつて、その先に滿洲といふ一心一體の國があり、大陸に不拔の根據を占めて居るのである。

かういふ地形を見る時、日本に諒解なしに、いづれの國も、シベリヤや支那大陸に對して、勝手な振舞ひは出來ない筈であつて、これぞ日本に與へられた自然の特權であり、資格なのである。この三千浬に及ぶ一連の島々によつて、形成されてゐる鎖は、これが唯一筋であれば弱いのであるが、東京灣から南方へ直下二千浬、伊豆七島、小笠原諸島、マリヤナ群島と續いて、赤道の北に横はる委任統治の南洋群島

と連繫して居る。而してこれ等の委任統治群島が、また東西二千數百浬に擴つてゐる。つまり北は大陸に打ち込んだ楔、それから日本の本土、更に南洋群島といふやうに、縱横に鎖が張りめぐらされ、これ等の島々によつて、百八十度以西の太平洋は、殆ど全部しつかりと握られて居ると云つていゝ。

南洋の委任統治群島はこれを經濟的に見れば、その價値は知れたものである。しかし、軍事上の價値に至つては大したもので、曾つて確か大角海相が、「南洋群島は刀にかけて離さない」と、云はれたのを記憶してゐるが、それほど重要で、この群島を日本が有つてをればこそ東亞は安定なのであつて、正に東洋平和の一大礎石である。

例へば、いまアメリカから大艦隊を以て、東洋に進出を企てたと假定しよう。その場合、ハワイから太平洋の中央を西航し、フィリッピンに出る道が航海上一番樂な航路である。北方のアリュウシャン群島方面から來る路もあるが、この航路は、濃霧のため、大艦隊の行動に適しない。それからまた赤道の南を迂回する路があるが、これは非常に距離が遠い。アメリカが東亞に進出する目標は、日本にあるに違ひないから、この赤道の南を廻る航路は、アメリカにとつて甚だ好ましくないものと思はれる。從つて日本の南洋群島を始め、西太平洋上に張りめぐらされて居る網は、東よりする攻擊に對して、防禦上、非常に役立つてゐるのである。

更に、西南方面から來る路も考へられるが、錯雜極りなき此の方面の地形を考へるとき、その中を通つて來ることは至つて危險で、今日のやうに飛行機や潛水艦の發達した時代に於ては、相當の困難が伴ふであらう。殊に臺灣、海南島、新南群島等、日本の領土が伸びてゐるから、これを横に眺めつゝ、敵の艦隊がひた押しに押してくるといふやうなことは、容易に出來る業(わざ)ではない。

かやうに、東からも南からも、或は西からも、日本に大艦隊を差し向けることは、相當困難であることが常識上肯けるであらう。

焦燥するアメリカ海軍

今日アメリカでは、思ひ切つた海軍の大擴張が企圖されてゐるが、しかしながら、歐洲の戰爭に於て、世界に誇るイギリスの大艦隊が、一體何をなしつゝあるかを仔細に檢討するとき、今までの海軍力の觀方、考へ方は、根底から改められねばならぬ。

ドイツの海軍力、イタリヤの海軍力のごときは、イギリスの海軍力に比較すれば物の數ではない。しかるに飛行機が想像もつかぬほど飛躍的進歩を遂げた結果として、海岸附近や狹い海洋では、英の戰鬪艦や巡洋艦は思ふ存分活動が出來ぬ狀態である。

IMT 546

いま假に、日本とアメリカの大艦隊が渺茫たる太平洋の眞中で、恰も土俵上で角力を取るがごとく戰ふ場合を想像すれば、戰鬪艦を數多く有つて居つた方が無論有利であらうが、そんな馬鹿氣た合戰は起りようがない。

戰爭は昔から一方が攻めると、他方が守るといふのが自然の定石である。守る方はのこ〳〵出ては行かない。敵を自國の海岸に引き寄せて、隙を狙つて一擧撃滅の手段に出る。古今東西を通じて、海戰といふものは、必ず何處かの海岸近くに於て行はれてゐる。それは戰史が實證するところである。今日イギリスなり、アメリカなりが、我れこそは世界一の海軍なりと自負して、堂々と隊伍を整へて、この西太平

IMT 546

洋の群島の中に、飛び込んで來るといふやうなことは、非常に無謀な話だ。ノルウエー、オランダ、ベルギーの海岸、さては東部地中海等に於て、イギリスの海軍は苦い經驗を嘗めたのであるが、それと同じ苦い經驗を、東洋に於て繰返すといふ物好きがあるとすれば、それはまことにお目出度い話である。

さういふ次第であるから、軍艦の數の如きは、左程問題とするには當らない。勿論、必要なだけの數量は建造保有せねばならぬが、大體將來戰が、如何なる經過を辿り、如何なる方面に起るべきかを考へれば、潜水艦なり飛行機なり、もつと效果的な戰鬪の手段があることに氣が付く。その點、各國共に既に氣が付いて居るのである。

昨今イギリス海軍は、巡洋艦、驅逐艦、及び水雷艇、これに飛行機を加へて、商船隊を掩護しつゝ、英佛海峽からドーバーを通つて、テームス河に入つてをる。しかも、多くの艦船をドイツ潜水艦や快速艇や爆擊機の好餌に供しながら、尙且つ遮二無二、これを强行しなければならない事實は、果して何を意味するであらうか。何もテームス河の方面のみを選ばなくともよささうなものだ。ところが、そこが問題なのである。

ロンドンの人口は四百萬と云はれてゐるが、これを日本流に附近の人口を合算すれば、千萬人に近い。この大きな人口を養ふためには、どんな大きな損害を蒙り、犧牲を拂つても、直接テームス河から物資

を陸揚げしなければ、間に合はないような危急の事態に立ち到つてゐると見られる。さればイギリスはドイツの上陸作戰を待たないで、早晩參るのではあるまいか。しかし、思へばドイツの潛水艦、飛行機、快速艇のために、海上の逆封鎖をされて、イギリスの國運が危急に瀕するといふ時に、これを效果的に防止出來ないイギリス海軍だとすれば、何のために存在を誇つたのかと、反問せずにゐられない。海軍は必要に相違ないが、海軍そのものゝ內容は、十分に檢討して見る必要がある。イギリス海軍こそ、いゝ見せしめだ。

資源問題と蘭領印度

次に國防の要素としての資源問題については、私は豫てから斯う考へてゐる。

今日わが日本では、物資不足の聲が喧しいが、それは百パーセントを望むからであつて、世界何處の國も十分だといふ國はない。食糧の如きも、日本の國は決して不自由はしない。若し足りないとすれば、それはやり方が惡いのだと思ふ。固より足りない物資も色々あるが、煎じ詰めれば、問題は油の一點に歸する。なるほど油は足りない。そこでアメリカに頭を下げなければならない譯であるが、何時までも平身低頭して、アメリカから油を買はなければ起ち上れない日本であらうか。東亞の新秩序建設は出來ないのであらうかといふ疑問が起る。

IMT 546

IMT 546

この問題を解決せずして、事變の解決も何もあつたものではない。

それでは如何にすればいゝか。それには東亞の自給經濟圏の確立、政府がいふところの大東亞の共榮圏の確立をなす以外にはない。アメリカが油を賣らないなら、嫌が應でも、生きて行く上からは、その必要な油を手に入れなければならぬ。その油は、蘭領印度にある。これが十分に使へるなら問題はない。何故にそれが使へないのか。要するに日本の決意一つの問題ではあるまいか。

いまアメリカが、日本に支那や南洋を自由にさせたくないといふ肚の底は見え透いてゐる。そして絶對的に油などを賣らない場合には、日本は勝手に南洋に手を出すだらうとの懸念より、アメリカは全海軍

力、全空軍力を擧げて戰時動員を行ひ、日本の威嚇にかゝつてゐる。だが日本の海軍力は、アメリカの海軍力に比して、些の遜色もない。今日では大損害を受けてゐるイギリスの海軍よりも、遙かに優勢である。それ故に、日本に對して、アメリカは全力をあげて海軍と空軍の戰時體制を以て、日本を抑へにかゝつて居るといふのが、現狀なのである。日本の海軍力が如何に素晴しい存在であるかゞ、これによつて實證されて居る。

この事實は同時に大西洋方面がからあきとなり、フランスを見殺しにし、イギリスの危急存亡も顧みる遑がない事を物語るものである。

そこでアメリカの海軍は、急に大擴張を計畫し始めた。それは太平

洋方面に於ては日本を抑へ、大西洋方面では獨伊を抑へる意圖からであるが、結局、戰爭でも結末を告げ、熱が冷めたら又どうなるか判らない。日本としては、よくその經過を見てから周到な計畫を樹てるがよい。

それはさて措き、「私は南洋といふものは、土地も民族も資源も東亞固有のものであると思ふ。それが往年、白人のために無理矢理に略奪されたのだ。いまや世界の歴史が變り、新しい秩序が世界に齎されようといふこの一大轉換期に於ては、これが正しい狀態に直さなければならない。正しい狀態とは、本來の歸屬に還るといふことに他ならない。これをモンロー主義と同意義で片づけようといふやうな考へ方もあるようだが、私はそれは採らない。何故ならモンロー主義はアメリカの現狀を維持して、他國の容喙を許さぬといふ主張だ。東亞の現狀を維持して、他國の容喙を許さぬのでは、日本は徒らに拱手傍觀して居らなければならない。さうであつてはならぬ。東亞の安定なくして東亞民族の福祉增進は得られない。東亞の和平なくして、世界の平和はあり得ない。東亞の安定のために、東亞民族の福祉增進のために、東亞固有の土地、資源、民族の返還を此の際要求せねばならぬ。

日本の國策がそこまで徹底し、これを內外に宣明して憚からないといふこと、これが外交の眼目でなければならないと思ふ。

IMT 546
IMT 546

日本の決意すべき秋！

要するに、今日は世界の戰國時代である。戰國時代には戰國時代の道德といふものがある筈だ。平時の道德と戰時の道德とは、自ら違はなければならぬ。これは西洋人も認めて居るところだ。さればこそ國際法に於ても、戰時國際法を彼等はちやんと認めて居るではないか。

世界の情勢は刻々に變化しつゝある。ヨーロッパの戰爭も、この儘何時までも續くとは思はれない。大體、これで片がついたといふことになれば、東亞に大きな影響の波及するのは明かである。それを考へる時、新體制も結構であるが、これは云はば恒久的のものである。しかし國際關係は焦眉の急を要する問題だ。先づ第一に、轉換外交の促進から着手し、新體制の方は急がず焦らずゆつくり腰を落着けてやつても、間に合ふのではないかと思ふ。

（昭和十五年八月二十三日、使命會講演）

IMT 546

IMT 546

昭和十五年十月十六日　印刷
昭和十五年十月二十日　發行
昭和十五年十月三十日　三版發行

世界戰と日本
定價　一圓三十錢

著者　末次信正
發行者　下中彌三郎　東京市日本橋區吳服橋三ノ五
印刷者　齋藤道太郎　東京市日本橋區吳服橋三ノ五

發行所　東京市日本橋區吳服橋三ノ五　株式會社　平凡社
振替東京二九六三九番

IMT 546

Miyamura hatiyaro

midikwogi

中桶武夫著

軍神杉本五郎中佐

四六判七二〇頁寫眞四十圖
定價二・八〇　送料・一四

杉本中佐の烈々たる愛國の至情は遺著「大義」に明かであるが熱心なる中佐尊仰者である中桶先生、中佐の眞精神を更に一層躍動せしむべく本書を著はされた。言行一致、知行一如の中佐の行跡、その心的發展の過程、信仰の世界、及び軍人としての志士としての杉本、又淡々たる中に聰明と奇智を潜めたる人間杉本の全貌は餘す所なく本書に描き出されてゐる。

杉本中佐遺稿

大　義

普及版〇・八〇　送料〇九
上製一・三〇　送料一〇

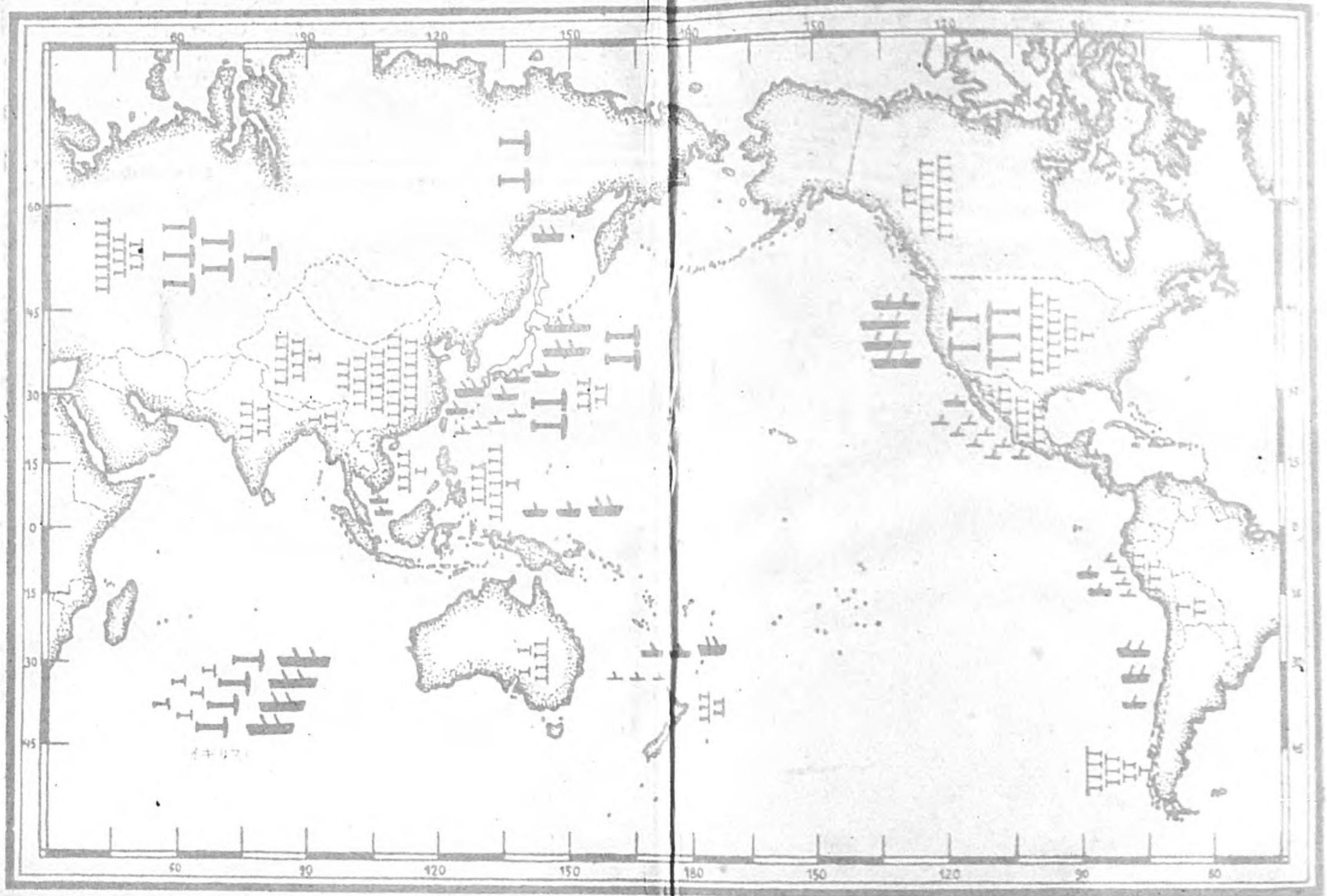
中佐は神に參じ劍に達して劍禪一如の境地を體得し、言行遇はず交友部下みな神の如く敬慕した。聖戰に參加する中支地に轉戰して傷勳を樹て遂に大敵の前と散つたのであるが、その尊皇絶對の大精神は剛すところなく本書に盛られ、透徹せる誠忠の大信念、浸み切つた生死一如の心境は全章に躍動する。正にこれ血と肉とを以て綴れる大文章である。

杉村盛茂著

馬と征く

四六判二〇〇頁寫眞四頁
定價一・五〇　送料・〇九

秋の河北省、陋窓の津浦線南下、初春黒龍の黄河渡河、曲阜の盛春、夏草の徐州、再度大別山に秋を送り、漢江・九江・南昌方面に蘇轉戰、さらに襄東に夏を迎へるまで、陋窓の曠野に、百三十度の炎天下に、泥濘雨中の追擊戰に、嘶く愛馬と渾然一體、血みどろになつて軍需品輸送に當る法學士補充兵の魅力に滿ちた奮戰苦闘錄だ！



（大平洋の地政學による）